

『藤農便り』 第18号

宮本茶園 ヘルミッシヨネルズ宮本

今年は梅雨明けが7月29日、梅雨入りから7月中旬まで低温・雨降りの梅雨寒が続きました。久しぶりに1993年の冷夏を思い出しました。その年の5月交通事故で、左腕開放骨折全治3ヶ月の大怪我をしました。ギブスがとれ出勤したいと職場に連絡すると、教頭から「2学期が始まるまで来なくてよいから、療養休暇が終わってもゆっくり静養するように！」と言われました。当時の学校は長期休業中の自宅研修が認められ、出勤の義務はありませんでした。言葉に甘え、特殊教育科の友人が就職した仙台へ七夕見物に出かけました。8月上旬でも東北地方の水田は稲がほとんど生長しておらず、秋に収穫できるのだろうかと感じた記憶が鮮明に残っています。

神奈川県に転職した頃の思い出ですが、新採用の勤務校が県立平塚養護学校でした。6月末に元同僚からメールが届き「教え子の木村英子さんが参議院選に出馬する」とありました。添付資料をみると木村さんは養護学校卒業後に施設入所せず、国立市で自立生活を始めたそうです。同時期私は特殊教育科のクラス仲間と活動した特殊教育研究部で、三多摩地区の自立する障害者介護に取り組んでいました。彼女の考え方はサークル活動を通してよくわかったので、微力ながら選挙を応援しました。街から離れた山暮しで特殊研究部の昔仲間や親しい友人に電話して投票依頼する事位しかできませんでしたが、木村英子議員誕生に役立ったと密かに喜んでいます。

・2年目の佐野川茶

4月28日遅霜がありました。前夜純子さんと呑み会で、帰宅する夜道は無風で満天の星空です。ほろ酔い気分で瞬く星を眺めながら、遅霜の嫌な予感がしました。朝目が覚めて雨戸を開けると、やはり屋根は真っ白です。朝食も取らず作業着を着ていると、小池顧問から電話です。「遅霜だ！茶畑に行ってみろ」「今着替えて出かけるところです」とだけ話し、軽トラに飛び乗りました。畑に着くと、まだ小さかった新芽は霜にやられて赤茶けています。連休中でしたが木村普及員に連絡すると「部員茶園の被害状況を写真に撮って送ってください」と指示されました。新年度藤野茶業部総会で私は役員になったのですが、役員最初の仕事が遅霜被害状況確認と報告でした。佐野川中を走り回り、慣れないスマホで写真撮影しメールに添付して送信、ぐったり疲れた一日でした。



連休明けに木村普及員の茶園巡回指導があり、茶園ごとに対処法が指示されました。私の茶畑は被害が大きく、「葉層の薄い茶園は収穫が見込めないの、更新を考えているならすぐに整枝して春肥の栄養を新しい芽に使った方がよい」と指導されました。茶園巡回指導後に開かれた部会では各農家茶園の生育状況を踏まえて摘採日程が検討され、最も効率の良い摘採・集荷・搬送方法を考えました。茶の品質は一芯二葉が最適な時期に摘採し、いかに早く（目安は3時間）茶園から荒茶工場に運んで蒸す事が最重要です。今年は大きな茶園の収穫は複数の摘採機を使い、また地区毎に作業日をまとめ効率よく集荷・搬送できるように摘採日程を決めました。足柄茶用に県農協茶業センターへ出荷する茶葉は5月11日～16日、佐野川茶に加工する茶葉は5月20日～28日に収穫、全ての茶園で摘採・集荷から蘆川荒茶工場搬入までを3時間以内に行うことができました。

遅霜被害は甚大でどの農家も収穫量は激減ですが、足柄茶用茶葉収穫から日数を置いたので佐野川茶加工用茶葉は前年度部会で決めた量を確保することができました。煎茶加工は木村普及員の紹介で、藤沢市にある日本茶専門店「茶来未」にお願いしました。茶来未は昨年までお世話になった高梨茶園同

様高い技術で製品加工してくださり、素晴らしい佐野川茶が出来上がりました。

新茶第一陣は6月13日納品、今年も14日に開催された上河原ホテルの里祭りでお披露目することができました。JA 藤野支店の店長以下茶業部役員総出で出来立ての新茶をお客様に振舞い、用意した製品はたくさんの方が購入してくださいました。第二陣からはパッケージにJA 神奈川つくい「神奈川つくい」と佐野川の茶畑風景が選定された「にほんの里 100選」が入りました。年間を通して販売いたしますので末永くご愛飲ください。



・夏の茶仕事

木村普及員の茶園巡回指導を受け、葉層の薄い茶園は5月8日に下側半分を更新整枝しました。上側半分は収穫後に整枝したのですが、7月上旬の茶園の様子です。下側半分は新芽が出て緑色の若葉に覆われ、上側半分ははまだ芽がなく枝ばかりです。わずか数週間の違いで素人が見ても明らかに生育

に差が見られます。木村普及員の指導の意味を実感する光景です。



収穫後はひたすら草取りです。特に新しく借りた再生茶園は昨夏雑草に覆われ悲惨な状態だったので、負けないよう努力しています。6反に増えた茶園は中途半端な気持ちで管理はできません。除草剤を使わないでどこまでできるかわかりませんが、秋まで全力を尽くします。

藤野茶業部の活動では、6月5日小池顧問の茶園の茶葉を使い農業技術センターで粉末茶製造研修をしました。佐野川では一番茶を収穫した後の葉は刈り捨てているだけなので、煎茶加工に続く製品開発が急務です。私が利用するてくてくのパンやまあさの家のお菓子には粉末茶が使われているので、業務用粉末茶の潜在的需要はあるはずです。佐野川茶の特色を生かした粉末茶が完成すれば、茶産地の新たな茶製品作りにつながると思います。7月12日長雨で実施できなかった夏整枝講習会があり、月末までに全農家の整枝作業を終えることができました。上岩の荒廃茶園再生にも継続して取り組んでいます。梅雨明け直後の31日、部員総出で草刈りと整枝作業を行いました。一年前茶樹が雑草で覆われ密林のようだった茶園はすっかりきれいになり、地道な努力は確実に成果を上げています。秋に施肥・製枝すれば、来年は収穫できるかもしれません。



・藤野クラフトビールホッププロジェクト

昨春和田にある旧神奈川県立陣馬自然公園センター施設内に藤野クラフトビール醸造所「Jazz Brewing Fujino」が開業しました。オーナーの山口さんは私と同じ移住者で、子育てのため都内から藤野に引っ越してきたそうです。純子さんを通して知り合いになり、ビール原料に佐野川茶を使っています。彼はビール原料に地元農産物をこだわり、ユズやハーブのビールも製造しています。

今年2月原料のホップを藤野で栽培しようと、ピオ市事務局土屋さんの呼びかけでホッププロジェクトが立ち上がりました。私もメンバーとなり活動に取り組んでいます。ホップの苗作りは意外に難しく、春に山口さんから渡された3品種の発芽率は0%でした。育苗と併せて、上岩茶畑の一角に委託された苗を植え付けましたが、元気に育ち今では小さな実を付けています。もっか栽培方法を勉強中ですが、将来は和田茶畑下側の休耕地をホップ園にしたいと考えています。和田茶畑はクラフトビール醸造所から700m、歩いて数分の距離です。陣馬山の登山者が「にほんの里100選」茶畑とホップ園の景観を楽しみ、醸造所で出来立てビールを飲んでお土産に佐野川茶を購入する。今は夢ですが、数年内に実現できそうです。山口さんには佐野川産雑穀でビールを作るよう営業活動していることも付け加えておきます。雑穀ビールは雑穀街道名物になる事間違いありません！



・ちーむゴエモンの活動2019（稲作）

冒頭で紹介した平塚養護学校の元同僚が小嶋倫子さん。彼女から「宮本さんの知り合いから味噌に仕込む大豆が買えないか」と連絡があり、千木良の高橋さんを紹介するために4月29日イネの播種作業へ誘いました。彼女は定年退職後福島原発事故放射能汚染被害に苦しむ子どもたちの保養に取り組む、地域活動にも熱心なのでゴエモンと交流できれば保養の輪が広がると思ったのです。小嶋さんは無事津久井在来大豆を購入、保養の様子や麹や味噌作り等いろいろおしゃべりでき、お互いに有意義な情報交換ができたのではないのでしょうか。

6月の田植えは用事があって欠席でしたが、8月6日田の草取りに参加しました。強い日差しの中、水田は意外に涼しく2時間程で作業を終えることができました。大きな雑草はほとんどなく、高橋さんの几帳面な水田管理が伺えます。一番大変だったのはモグラの掘った穴から流れ出る水を止める作業でした。お土産にゴエモン小麦で作ったウドンをいただき、おいしく食べさせてもらっています。





・雑穀街道普及会

5月になると麦がきれいに穂を出しました。初夏のさわやかな風にたなびく麦の穂波は、見ているだけで心が豊かになります。土寄せを小まめにしたせいか、雑草も大きくなりませんでした。6月中旬、刈り取り準備を始めていると田村さんが畑に来られ「粒を潰してみろ、こんなに柔らかくては収穫できないぞ。穂が垂れ、粒が固くなり中が真っ白になった時が刈り時だ」と教えてくださいました。小麦収穫は6月26日、もち麦収穫は7月11日でした。脱穀も機械を貸してくださり、手取り足取り作業を指導していただきました。初収穫の麦は虫がわかないよう天日干ししています。製粉したら土屋商店を通して販売いたします。



昨年は半分の面積しか作付けできなかった雑穀畑ですが、栽培量を増やし雑穀見本園を作りました。見本園はなかなかイメージがわかず、小菅村を訪ね木俣師の畑を見学しました。一番茶収穫が済むまではなかなか時間が取れず、植え付けは6月14日、上河原ホタルの里祭り開催日でした。モチキビ・モチアワを各一畝、見本園に木俣師からいただいたセンニンコク・シコクビエ・オカボ・ウルチアワ・ハトムギ・キヌアを播き、ホタルの里祭り会場に駆けつけました。6月下旬から津久井在来大豆・借金なし大豆を播種、モロコシ・甲州モロコシ苗を定植して一反の植え付けを終えました。今は草取りと土寄せをしながら防鳥ネットを張る準備をしています。



木俣師と純子さんは相模原市緑区と雑穀街道の世界農業遺産登録申請について交渉しています。詳細については木俣師から配信される「植物と人々の博物館メルマガ」でご覧いただけますが、7/28付に「相模原緑区では雑穀街道を世界農業遺産に申請する方向で、4年間の普及啓発計画を立ててくださいました」と報じられています。上岩の雑穀畑は活動拠点になっていますので、いつでも見学にお越しください。

*興味ある方はヘル宮本までご連絡ください。
Tel: 090-2205-8476 (宮本透)